



司祭服（簞手）資料No.103 KSW01863 表



司祭服（簞手）資料No.103 KSW01863 裏

司祭服の手首に付ける簞手1組のうちの1点。

茶色の絹錦（ブロケード/ランパス）が台形に仕立てられている。周囲は金属糸のブレードで囲まれ、中央にはブレードが十字に重ねて縫い付けられた装飾的な仕立てである。

両端に3つずつ、銅製の輪が縫い付けられ、一か所に薄茶色の絹紐が結ばれていることから、輪に紐を通して装着する仕様であったことがわかる。

表地の絹錦（ブロケード織）の緯糸には金属糸（補緯糸）が織り込まれている。

織物の文様と技法から生地 of 製作年代は19世紀前半、制作地はフランス（リヨン）の可能性が考えられる。

表生地は2枚をはぎ合わせていることから、別の用途であった生地を仕立て直したことがわかる。裏地は黄色の木綿の綾織布が使用されている。キリスト教会において、黄色は黄金（光）を表す。

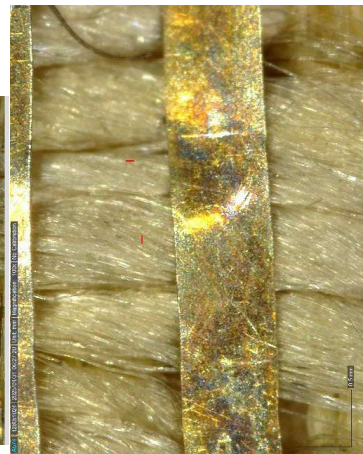
全体に汚れているものの、生地と仕立ての状態はよい。

金糸の調査

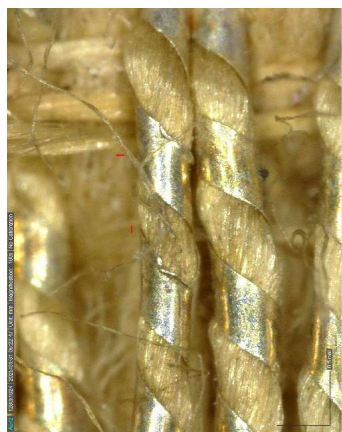
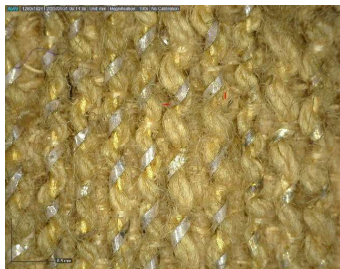
①



②



③



④

